

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190100958		
法人名	株式会社 創生事業団		
事業所名	グッドケア・大通東(ぼたん館)		
所在地	札幌市中央区大通東6丁目12-21		
自己評価作成日	令和4年2月7日	評価結果市町村受理日	令和 4年 5月 11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyvosyoCd=0190100958-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和4年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の個々の能力に応じ、出来る力を発揮出来る機会を設けている。 ・「手伝うよ」「何かしますか?」との言葉を引き出し「ありがとう」の言葉を伝えるやり取りを大切にしている。 (十分に出来なくてもやろうとする気持ちや感謝の気持ちを伝える事を大事にしている) ・一緒に笑う事を大切にしている。 ・季節ごとに装飾をして季節感を感じて頂く。また、外出行事を行い家族様と入居者様の思い出作りを大事にしている。 ・教会やスーパーの掲示板を参考に地域活動への参加をしている。 (コロナのため現在は参加出来ず)
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の生活歴に配慮し、その方らしく生活出来るように配慮しているとともに個々の性格や個性を尊重し役割をもって頂けるよう働きかけ実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会は都会である事、地域的に高齢者が多く町内会行事が少ないため日常的に交流する事が出来ない。出来る範囲での交流を心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催し理解や支援法など説明している。(コロナにより面会禁止等もあり書面で報告している)ホーム見学など近隣の方の見学も受けている。(コロナのた状況に応じ実施)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告は毎回行っており、ご意見や希望、曜日や時間帯の工夫も考え参加しやすいものとし向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で地域の情報などをお話し頂けるように参加を依頼するなどして、ホームを知って頂けるよう努力している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立地や防犯上、オートロックの施錠玄関ではあるがホーム内はユニットを越えて自由に行き来出来るよう対応している。身体拘束についての勉強会を開催しケアに取り組んでいる。身体拘束をやむおえず実施の場合は記録し、カンファレンスを定期的開催しケアの見直しを常に行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。研修も実施。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置している。会議時に虐待委員会による内部研修も行い、声掛け法やどの対応が虐待に当たるのか？またスタッフ同士が対応について注意しあえる環境作りをしている。		

グッドケア・大通東(ぼたん館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各資格取得の際に学んでいる。すでに利用されている入居者様もあり、ご家族様含め情報・対応の役割分担など協力している。内部研修としても取り上げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	難しい専門用語は使わず、理解して頂けるように説明しており随時、質問にお答えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、メモ用紙・ペンを用意して意見を頂ける環境作りをしている。また、面会時にご意見を頂戴出来るよう働きかけている。入居者様との日常会話から意見を聞き取りし行事等に反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社として年2回の人事考課面接を行っている。職員の意見は発想が豊かで気付く視点も違い貴重なため、出来るだけ事業所で取り入れられるようにしている。他職員の調和も考え会議等で検討する事もある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	11の内容の他、職場環境の理由で退職者が出ないようにやりがいや意欲を本人と相談し、ユニット異動や希望の職場への異動を支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を月一度行っている。職員からの要望を受け技術講習会・勉強会をスタッフが講師となり指導する事もある。外部から講師を招き受講する事もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生からの受け入れや外部研修参加など。また、各事業所から選出された実務者レベル研修など行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安の状態によって、あまり多様にスタッフが変わると良くない場合や、ご家族がいると逆に良くない場合を見極め、本人様の様子に合わせてご家族様と相談し時間を掛けながら寄り添う姿勢から馴染みになれるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約の際に、本人様のご様子を伺いご家族様の不安や要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームのサービス内容をご説明し理解された後で再度説明が必要な場合がある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアする側だけでなく、昔話や生活の知恵など人生の先輩として職員が知らない知識を学ぶ機会を頂戴している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、コロナのため月2回電話でご家族様の報告、月に一度お手紙を送り本人様の様子をお知らせしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の支援が大きく、遠方から親戚の方や友人がみえた際は、ゆっくり過ごして頂けるよう環境作りをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自ら他者の声掛けや手を貸している様子を制止しない事。		

グッドケア・大通東(ぼたん館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の理由によって「待機登録」の提案をご家族様にさせて頂き、希望時待機登録している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示の難しい方にはご家族から情報を頂く事もある。何気ない会話からどのように生活していきたいか読み取る努力を継続している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族とのコミュニケーションを通じたり、アセスメントシートを読み返すなど、現状とあわせて知る努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の会話やしぐさからその時その時の状況を見極めその時のその方にあつた1日を過ごしていただけるよう職員間で情報交換しケアに務めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報収集を日々行い、スタッフからも聞き取りをしつつ計画書に生かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関係ないと思う小さなことでも、記録や連絡ノートに書くなどし、情報共有に努めている。すぐにできそうな事は、試すようにし、だめなら手法を変える。結果、計画に位置付けているものもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに答えられるように、会話を大切にしている。話しやすい、相談しやすい環境をつくる努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況に応じ、買い物に出る、散歩に出るなど、楽しみを持てるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要によって訪問診療先をご家族の希望で変更する対応をおこなう事でご家族から安心いただき適切に相談できる関係を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師に1週間の様子や相談内容を書面で渡している。また、医療知識を学んだり、観察点のアドバイスをうけられる関係ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時には病棟看護師やソーシャルワーカーと情報交換や相談し、退院前にカンファレンスに参加するなどしている。入院の際には面会を必ずし本人様のご様子の把握、ご家族様との意見交換もし状態の把握をつねにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関と連携し、ご家族やご本人の希望に沿った終末期を迎えられるよう、チームでも情報を共有し、目標を立てながら実践していく。また家族様からどのような終末期を迎えたいかの意見も折をみて伺っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要に応じ、手順について話をしたり、作成してあるマニュアルをわかりやすい場所に設置し目を通すようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で町内会から情報を得て、避難マップを準備し、災害を想定しての訓練を実施している。実戦で常に役に立つことも想定した訓練も行っている。室内の環境整備をし動線の確保をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に安心感や笑顔がみえる関わりを意識している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や表情から、思いを感じたり希望をうかがっている。自己決定出来ない方もいるため職員介入し決定しやすいお声かけをするなど努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	過ごし方のパターンや安心できる場所の提供や雰囲気づくりをし自由に過ごして頂ける意向に沿った対応をしている		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	清潔感のある身だしなみや同じ物ばかり着ないようにと季節に合わせた衣類を選んでいただく。またご本人が選びやすい言葉運びに努めている。		

グッドケア・大通東(ぼたん館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛付の作業をして頂き、会話の中から食の思い出や食べ物の好みや昔話などを話している。味見もしてもらい味の塩梅をみてもらうこともある。食べる時には○○美味しいねなど食の共有をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な栄養や水分が取れる様支援している。状態によりその方にあった形態に変化させたり(おにぎりやパン、おかゆ、麺など)食べやすい様にし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の利用の他、3食後の口腔ケアの実施している。お手伝いの必要な方もいる為苦痛にならないように配慮しながらおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情や言動から排泄サインを読みとり必要な援助をしている。また、場所がわからない方のために「トイレ」と張り紙をトイレの位置がわかりやすいようになっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分、運動による自然排泄に努めているが、便秘時にはお薬使用しての排泄も取組みをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低限週2回は入れる様、基本の曜日は決めてはいるが、時間を決めてもらったり、入りたい時には入れる様、入りたくない時は時間や曜日をずらすなどの工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できる様、日中の活動量に注意をしたり、また光や音などへの配慮もしながら安眠や休息を促すなどの配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更された際には特に注意を払っており、副作用について記載し周知している。またセット間違いのないように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特別な活動(レクや行事)以外でも日常生活リハビリも取り入れたり、不定期ではあるが個別に散歩に出かけたりしている。冬場は外気浴を。又、他館へ届け物をしたり館の交流も行き気分転換をしている。		

グッドケア・大通東(ぼたん館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍で外出支援は行っていないが、希望があれば添いたい。(現状は外に出るのを好まない、混乱してしまう方が大半)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う事や持つことに自信がない為、かえって預かっているというのが安心な様子もあり無理にお預けしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも希望時に対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとや行事ごとに飾りを付けたりし雰囲気が出る様工夫している。又、入居者様の動線に配慮しテーブル位置の変更や入居者様に合わせた温度調節もし居心地のよい空間づくりを実践している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ一席やテーブル席を自由に座れるようにしている。(座席の固定はしていない)。なじみの方との会話や作業ができる様に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には少しでも安心できる様、馴染みの家具や好みの衣類の持参を依頼している。また家族様の写真など自由に貼っていただいたり居心地の良い空間を作られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一部張り紙はしているが、トイレや台所、洗面所などの場所がわかりやすく、手すりも見やすいよう設置している。動線に注意して家具も設置し、安全に動けるよう考慮している。		